

MMB-11は90シリーズポータブルトランシーバFT-290/FT-690/FT-790Rを車載用として使用する時のブラケットです。

構成

ブラケットケース組立品	(D6000021)	1	
ハンガー	(R0071840A)	1	
六角ボルト (M4×6)	(U50406008)	4	
バネ座金 (M4用)	(U71004002)	4	
平座金 (M4用)	(U70004002)	4	
ビス (M5×10)	(U00510001)	4	
外歯座金 (M5用)	(U72005001)	4	
ナット (M5用)	(U60500001)	4	
平座金 (M5用)	(U70005001)	4	
※スペーサ	} リニアアンプ 固定用	(R6071850)	4
※タッピングネジ (3φ×10バインド)		(U42310001)	4
電源ケーブル (3Aヒューズ付)	(T9002803)	1	
予備ヒューズ (3A)	(Q0000004)	1	
接続ケーブル (リニアアンプ接続用)	(T9101271A)	1	

※スペーサ・タッピングネジはFL-2010、FL-6010の場合に使用します。
FT-790R/FL-7010とMMB-11を組み合わせる場合にはFL-7010に付属しているM3×6のバインドネジで固定します。

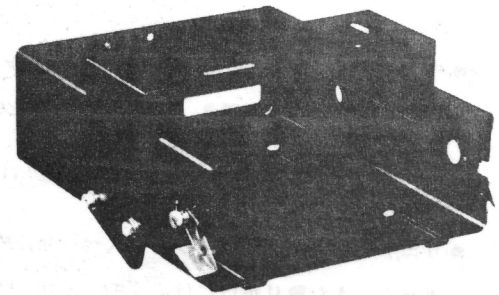
使用方法

コの字型ハンガーをダッシュボード下などに固定した上で、ご希望の角度でブラケットケースを取り付けます。

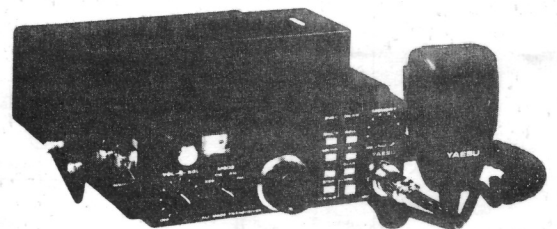
電源コードを正しい極性で (ヒューズが入った赤線をバッテリーのプラス端子、黒線をマイナス端子) バッテリーに接続し、ブラケットケース背面のEXT 13.8V端子にプラグを接続します。

プラス・マイナスを間違えて接続した場合には、トランシーバを入れた時に保護回路が働いてヒューズが切れますから、ヒューズが切れた場合には、ヒューズ交換を行う前に電源コードが逆接続ではないかどうかを確認して下さい。

また、使用するヒューズはガラス管入り3A (ただし、リニアアンプを併用する時は5A) のものを使用して下さい。大電流のヒューズや針金などは絶対に使用しないで下さい。



MMB-11



MMB-11とトランシーバ



MMB-11とトランシーバ/リニアアンプ

ルーフサイド型ホイップアンテナなどを給電する50Ωの同軸線プラグをANT端子に接続します。

(FT-790Rの場合はMMB-11を通さずに直接トランシーバのANT端子に)

これで準備が出来ました。トランシーバをブラケットケースに静かに挿入します。電源端子、アンテナ端子に当たりましたら、トランシーバが斜めに入っていないかどうかを確認して押し込みます。軽い接触時の抵抗を感じてブラケットとトランシーバが接続出来ました。左右のストッパがロックして取付完了です。

トランシーバを挿入する時には (特に最初の時)、無理に押さず、軽く押し込む感じで取り付けて下さい。少し斜めに入ったような場合に、端子部分を破損することのないようご注意下さい。

トランシーバを外すには、左右のストッパレバーを同時に押し下げて下さい。ストッパが外れ、トランシーバを抜き出すことが出来ます。

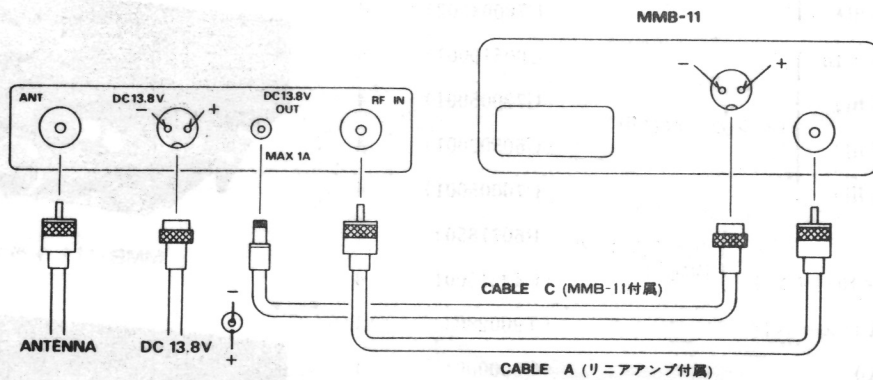
MMB-11は、底面にリニアアンプFL-2010/FL-6010/FL-7010が固定できます。

- ブラケットケースをひとまずハンガーより外します。
- リニアアンプ (FL-2010/FL-6010の場合) のケース凹部にスペーサを置き、ブラケットケース底面の長穴で位置をきめて付属のタッピングネジ (3×10) で固定します。
- リニアアンプFL-7010の場合はスペーサは使用しません。また取り付けには必ずFL-7010に付属の

M3×6のバインドネジを使用して下さい。タッピングネジを使用すると止め金具のカシメが外れることがあります。

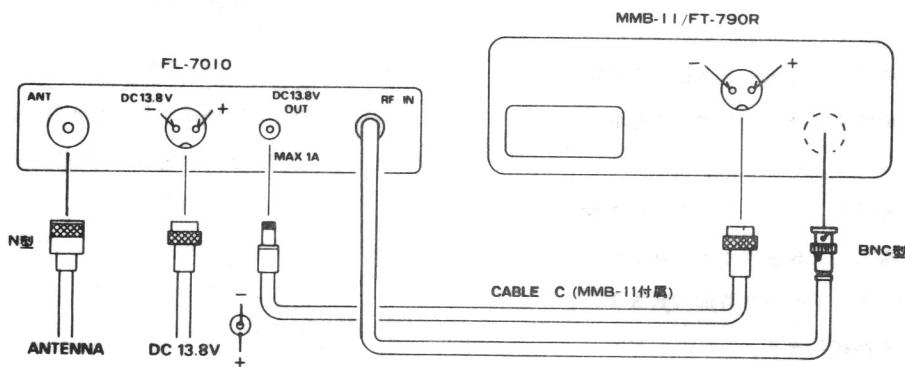
MMB-11とトランシーバおよびリニアアンプはそれぞれの付属ケーブルを使用して第1図、第2図のように接続します。

なお、リニアアンプを使用する時の電源コードはリニアアンプに付属している電源コードあるいは線間ヒューズを5Aのものに交換して下さい。



FL-2010/FT-290、FL-6010/FT-690とMMB-11の接続

第1図



FL-7010/FT-790RとMMB-11の接続

第2図

for free by
IW1AU web site



八重洲無線株式会社

営業部 東京都大田区下丸子1-20-2 ☎146 ☎03-759-7111